

小田原市教育委員会定例会会議録

- 1 日時 平成19年12月20日(木)午後7時～午後7時15分
場所 小田原市役所 601会議室

2 出席した教育委員の氏名

- 1番委員 山田浩子
2番委員 青木秀夫 (教育長)
3番委員 桑原妙子
4番委員 安藤實英 (教育委員長)
5番委員 横田俊一郎 (教育委員長職務代理者)

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

- 学校教育部長 和田 豊
教育政策課長 曾我 勉
学校教育課長 佐宗 修二
教職員担当課長 柳下 正祐
学校教育課課長補佐兼指導主事・指導担当主査事務取扱 長澤 貴
(事務局)
教育政策課課長補佐・教育政策担当主査事務取扱 杉山 博之
教育政策課主査 望月 啓一郎

4 議事日程

- 日程第1 議案第21号 平成20年度全国学力・学習状況調査への参加について
(学校教育課)

5 議事の概要

- (1) 委員長開会宣言
(2) 会議録署名委員の決定...山田委員、青木委員に決定

(3) 日程第 1 議案第 2 1 号 平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査への参加について
(学校教育課)

提案理由説明...教育長、学校教育課長

青木教育長...それでは、議案第 2 1 号「平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査への参加について」を御説明申し上げます。同調査は、国が平成 1 9 年度から実施しておりますが、平成 2 0 年度の調査に本市が参加することについて、附議をいたすものです。細部につきましては、所管から御説明申し上げます。

学校教育課長...それでは、御説明申し上げます。資料といたしましては、「平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」と、「平成 1 9 年度全国学力・学習状況調査の調査結果概要」をご用意してあります。まず、「平成 1 9 年度全国学力・学習状況調査の調査結果概要」についてですが、この資料は、文部科学省のホームページに掲載されているものの抜粋であります。内容としては、小学校国語・算数、中学校国語・数学の概要と、課題、指導改善のポイントを示してあります。文部科学省からは、もっと詳しい分析内容が示されています。なお、県では現在、それらのデータをもとに検証改善委員会で分析をしており、1 月に公表予定であります。本市においては、この県の分析結果を踏まえ、市独自に傾向分析をし、市の事業改善につなげるとともに、各学校での具体的な指導改善に役立つよう提示していきたいと考えています。

次に、「平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」について説明いたします。まず、平成 1 9 年度の実施要領と異なる点がいくつかありますが、来年度の本調査への参加の有無について関係があります点のみ、ご説明いたします。1 ページ目、調査の目的をご覧ください。(1) の 2 行目、「きめ細かく」という文言が追加されています。(2) の 2 ~ 3 行目、「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」という文言が追加されています。(3) すべて、「各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。」という文言が追加されています。4 ページ目、7 の「調査結果の取扱い」(4) 「調査結果の取扱いに関する配慮事項」では、前置きとして、「調査結果については、本調査により測定できるのは学力の特定

の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮して、適切に取り扱うものとする。」という文言が追加されています。これ以外にも、いくつか追加や削除されておりますが、本日審議していただきます「参加の有無について」は、直接かわらないであろうという点ですので、説明を省かせていただきます。続きまして、本日審議していただきます「参加の有無」について、直接、関係してくる項目であります「３ページ、６の調査の実施体制」について、説明いたします。本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者である市町村教育委員会の協力を得て実施することとなっており、所管の学校に対して指示・指導・助言等をするなどにより調査にあたることとなっております。国は、本調査の実施にあたって「全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議」において事前の検討を行なってきており、悉皆で実施する方向を示し、実施要領を作成してきています。よって、文部科学省から各都道府県教育委員会への通知では「同実施要領に基づき本調査を実施するにあたり、本調査への参加について確認します。」という文言になっており、調査への参加に特段の支障がある市町村のみ、その理由を記入することとなっております。よって、国としては、参加が基本であるという姿勢をとっております。これらを踏まえ、よろしくご審議をお願いいたします。

(質 疑)

桑原委員...平成19年度分については、議案ではなかったと思いますが。

学校教育課長...議案とはしておりませんでした。しかし、全国的なレベルで実施される重要なものと判断され、結果公表などの取扱いの問題もありますので、今回から附議させていただくものです。

桑原委員...調査に参加しない割合は、平成19年度分ではどの位だったのでしょうか。

学校教育課長...愛知県の犬山市以外では聞いておりません。

横田委員...犬山市が参加しなかった理由は何でしょうか。

学校教育課長補佐...犬山市は独自の教育理念があり、そういった意味で参加は必要ないと判断したと認識しています。

横田委員...全国の中で、また県内でどのくらいの位置にあるのかを知っておいた方が

良いのではないかと思います。参加しない理由もあまりないように思います。

安藤委員長...過度な競争を招くようになれば、いびつになってしまいますが、そうでなければ指標として相対評価も大事だと思います。

桑原委員...何かのテストで、競争意識のため前もって問題を教えたような事例も聞いたことがあります。

青木教育長...子どもたちにきちとした学力を等しく保障するためには、現実問題としてこうした調査がないと、相対的にどのくらいの位置にあるのかが検証できない状況です。また、子どもたちにとっても自分の現状を把握して、励みにするという効果もあると考えており、本市としてもぜひ参加したいと考えています。

安藤委員長...他校比較では結果が低くても、前年比較では向上し、努力したようなケースをどう見ていくのか、どう使っていくのかも大事なところだと思います。

桑原委員...発表の仕方として、全国比較、県内比較だけでなく、前年度比較もあれば学校として頑張っていることがわかり、良いのではないのでしょうか。

青木教育長...本市としても、そのような取り組み方ができればと考えているところです。

安藤委員長...学校内で改善目標を探すなど、調査結果をどのように使っていくのか、また公表についても、逆効果が生じないような形として、学校運営に生かしていければ良いと思います。

(その他質疑・意見等なし)

採決...全員賛成により原案のとおり可決

(4) 委員長閉会宣言

平成20年1月24日

委 員 長

署名委員（山田委員）

署名委員（青木委員）